

「再生、そして未来へつながる力強い一歩を踏み出す1年に」

仙台商工会議所 会頭 鎌田 宏



2022年の新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。
地域商工業者の皆さまにおかれましては、新型コロナウィルスに対応しながら、懸命に事業に取り組まれておりますことに、改めて心から敬意を表します。

さて、昨年を振り返りますと、宮城県内においても、コロナ禍に関わらず、またコロナ禍だからこそさまざまなトピックスがありました。サッカー競技10試合が行われた「東京オリンピック・パラリンピック」、そして4月から9月の半年間実施された大型観光キャンペーン「東北デステイネーションキャンペーン」は、人流抑制という制約を抱える中での開催となりました。一方、ワクチン接種の進展と、それに伴う「ワクチン・検査パッケージ」による実証実験が開始されたことなどは、一昨年と比べ感染拡大防止と社会経済活動の両立に向けて大きな前進になったものと存じます。

また、復興道路として、仙台と八戸を結ぶ「三陸沿岸道路」をはじめ、栗原と登米を結ぶ「みやぎ県北高速幹線道路」が全線開通しました。これは物流効率化による企業立地の推進や販路開拓、交流人口の拡大など、今後のさらなる地域産業振興の大きな追い風となることでしょう。

当所におきましても、楽天グループとの連携により会員事業所を対象にしたワクチン接種を実施し、約2200社の役員や従業員、そのご家族など、約2万1000人に、2回目までの接種を行いました。また、専門家のアドバイスを受けて策定したガイドラインに基づき、「仙台七夕まつり」や「仙台初売り」を開催し、街ににぎわいを創出するとともに、次年度へ伝統をつなげることができました。

こうした流れを受け、2022年はコロナ禍からの地域再生に向けたさらなる一歩を踏み出す年になるものと存じますが、企業を取り巻く経営環境に目を向けますと、デジタル化やDX、事業再構築等による生産性や付加価値の向上、原油価格の高騰などといった目下の対応を迫られる諸課

題の山積に加え、人口減少、高齢化という構造的課題、脱炭素（カーボンニュートラル）やSDGsの推進をはじめとする国際社会の動きなど、注視するべき話題は尽きることがありません。

政府においても、「成長と分配の好循環」と「コロナ後の新しい社会の開拓」をコンセプトに「新しい資本主義」を掲げ、地方をその主役と位置づけており、この実現に向けては、各企業のみならず、地域全体で取り組んでいくことがますます重要となってきます。

そこで、当所では、より長期的な視点で東北の中核都市としての仙台のあるべき姿を想像し、企業活力と地域力の強化を進めるため、2022年度から2026年度までの5年間の事業の指針となる「第5期中期ビジョン」を策定しました。「地域から世界へ。いま以上に多くの人々が訪れ、暮らし、力強く飛翔する都市「仙台」づくりへの挑戦」をテーマに掲げ、地域中小企業の果敢なチャレンジを強力に後押ししながら、「コロナ禍からの地域経済の再生」に全力で取り組むとともに、「多様な人材が集い、チャレンジし輝く街」、そして、「宮城・東北をけん引する選ばれた都市」の実現を目指し、取り組みを進めてまいります。

先行き不透明な情勢ではありますが、我々は、2011年のあの未曾有の大震災からも、東北人の粘り強さと不屈の精神で、ここまで復興への歩みを進めてきました。また、その過程で生まれた「絆」というかけがえのない財産は、次の時代を切り開く重要な助けとなるものと確信しております。

本年は、「再生、そして未来へつながる力強い一歩」をキーワードに、会員の皆さまお一人一人が輝く未来への歩みを進めていけるよう尽力してまいります。

結びに、会員事業所の皆さまにとりまして、2022年が、コロナ禍を乗り越え、大きな飛躍の1年となりますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。